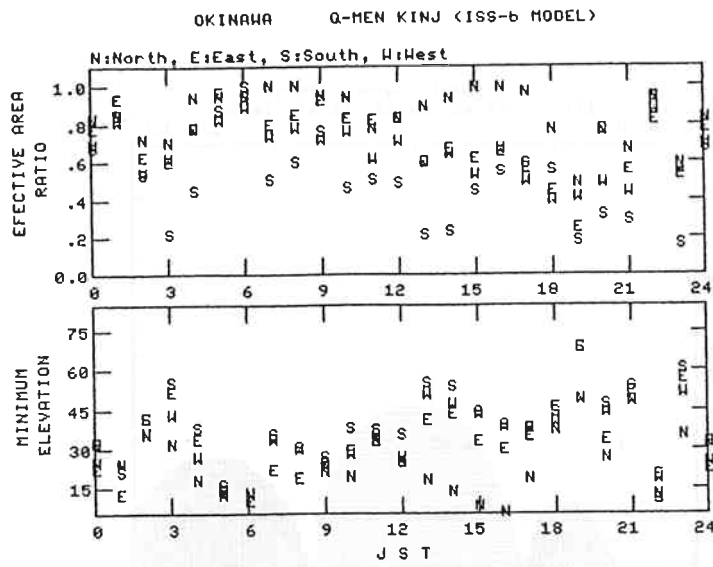
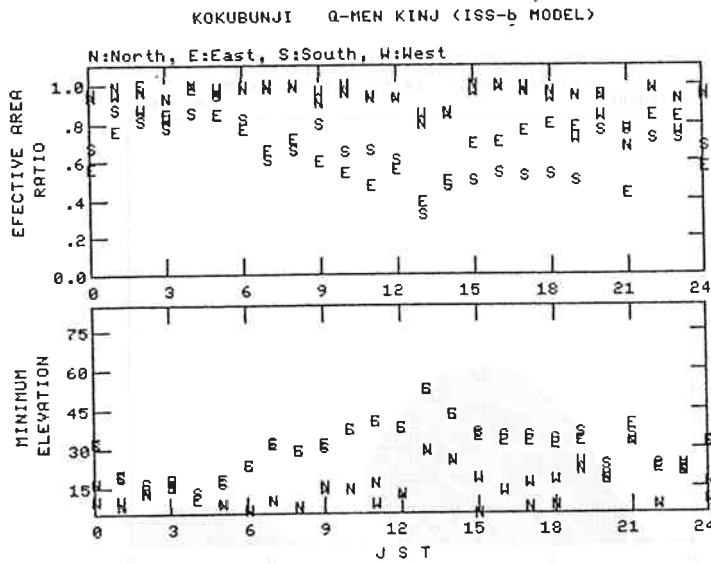


図2. 球面近似法による電離層補正近似有効領域の方位角・仰角依存性 (12 h J S T)。上段パネル沖繩、中段パネル国分寺、そして下段パネルは稚内を示す。8GHzでの遅延の誤差に換算し、0.1 nsecを正に越える部分を++++++、負に越える部分を=====で示す。伝播経路長の仰角依存性は考慮に入れている。

(a)



(b)



(c)

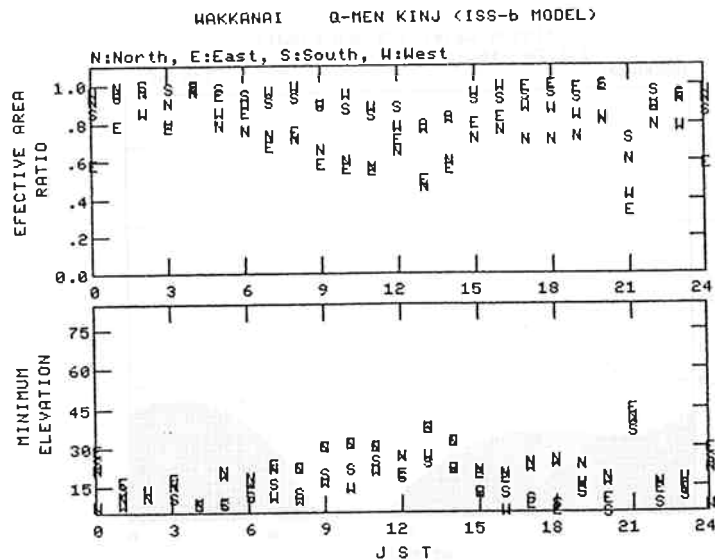
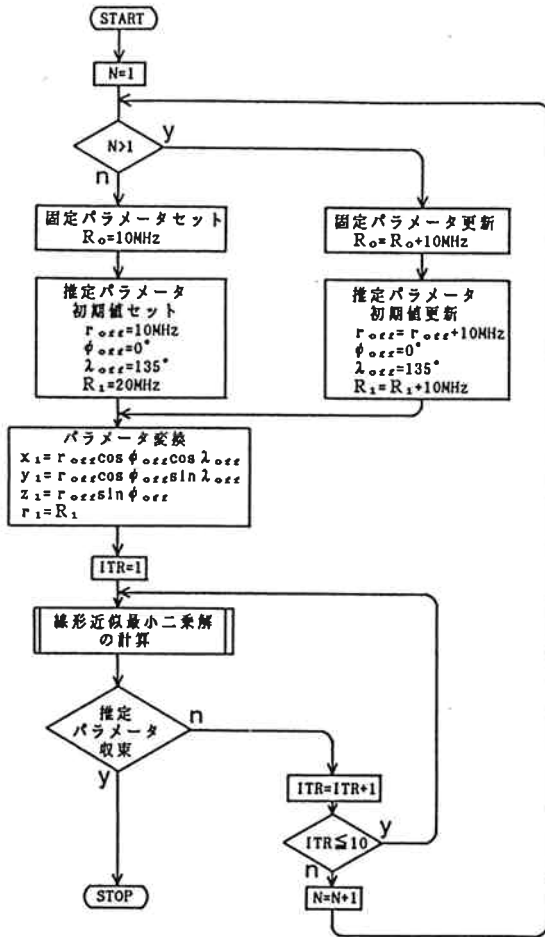


図3. 球面近似法による近似有効領域立体角比及び近似有効最小仰角のJST依存性。方位は北($315 < AZ < 360$, $0 < AZ < 45$)、東($45 < AZ < 135$)、南($135 < AZ < 225$)および西($225 < AZ < 315$)の4つに分けてそれぞれN, E, S及びWのシンボルでプロットしている。立体角比の計算には仰角の範囲 $5^\circ \sim 85^\circ$ を用いた。最小仰角はその方位での近似が無効である領域の最大仰角で定義している。(a). 沖縄。(b). 国分寺。(c). 稚内。

(a)

球面近似 (5ヶ所データ) フローチャート



(b)

球面近似 (3ヶ所データ) フローチャート

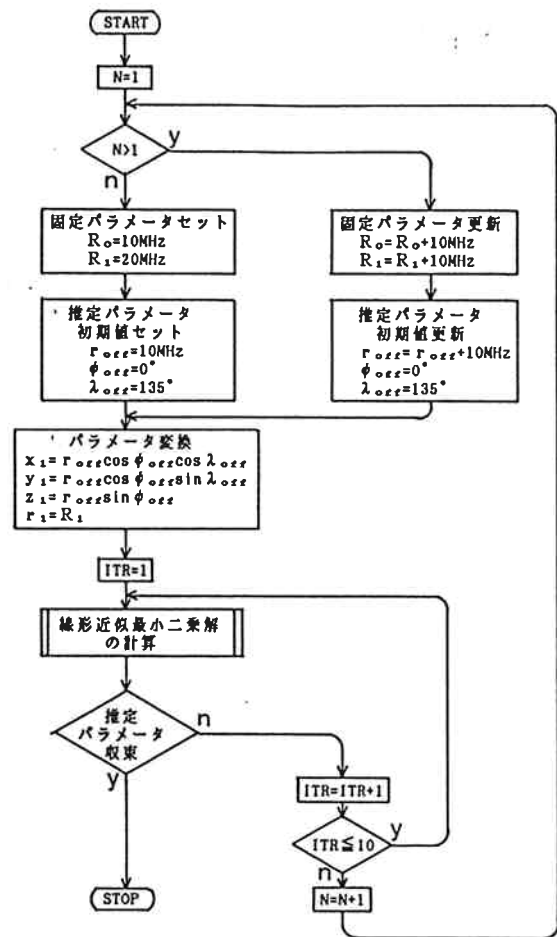


図4. 球面近似法フローチャート。(a) 5地点データ。(b) 3地点データ。

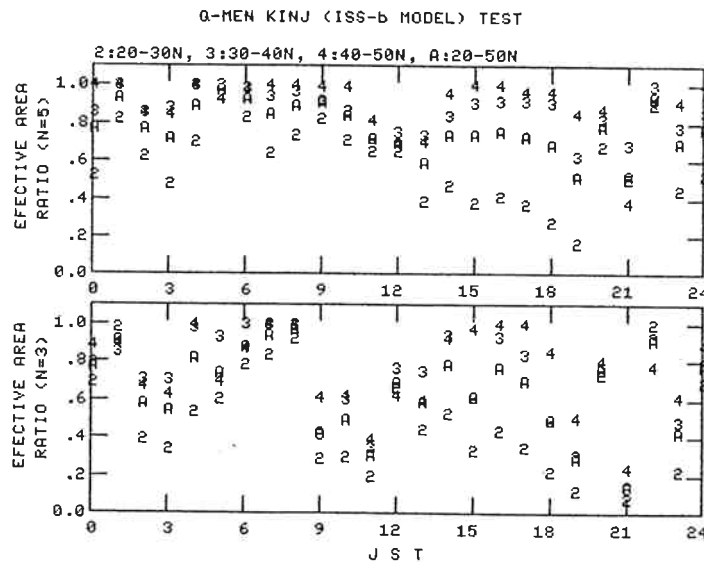


図5. 球面近似法一使用データ点数の違いによる近似有効領域面積比の比較。上段. 5地点データを用いて球面近似した場合の近似有効領域面積比のJST依存性。経度範囲120Eから150Eで、緯度範囲40Nから50N, 30Nから40N, 20Nから30N, および20Nから50Nについて、それぞれの領域のすべての範囲が電離層補正有効適用範囲だった場合を1として横軸にJSTをとり、縦軸に有効範囲を面積比でとって示す。緯度の違いによる面積の違いは補正済みである。下段. 3地点データを用いて球面近似した場合の近似有効領域面積比のJST依存性。